

【正論】心打った日本人の英語スピーチ 東京大学名誉教授・平川祐弘

国旗、国歌はその国の象徴として大切にされ、互いに尊重するのが国際常識だ。ましてや国民が自国先の大戦では中国が米国を味方にひきこんだから日本は敗れた。米国の支持を決定的にしたのは蒋介石夫人の宋美齡が米国議会で声涙ともにくだる英語演説をし、抗日戦争の義を訴えたからだといわれる。

その同じ米国議会で安倍晋三首相が演説し喝采を博した。世界の警察官を任じる超大国に気力の衰えが見える昨今、日米同盟の価値を米国民に再認識させるには智にも情にも訴えねばならない。そうである以上、英語で話しかけたのがよかった。「日本の首相だ。日本語を覚え」とさかしらの評論家というが、異性に声をかけるとき通訳を覚えというに似た愚論だ。

《有名人の英語は立派だったか》

東大教師は昔から口先は反体制が多く安倍演説にもケチをつける。そんな東大に頭のいい奴（やつ）が入る。学生はエリートで、まして教授ともなれば英語は自由自在と思ったら錯覚だ。戦後の東大で一番高名な英文学者は中野好夫だ。日本語のめりはりが利く講義は聞かせたが、英会話はおよそ得意でない。米国へ招かれて立往生した。幸い夫人が留学体験に富み、お蔭（かげ）で助かった。中野利子『父 中野好夫のこと』はその辺があけすけに書いてあって面白い。

外交官の語学力の差もひどい。失礼だから名は伏せるが、娘が私に同行して公邸に招かれ、大使の英語に驚き「あんな下手でいいの」といった。もっともこの娘、父はどここの国でも言葉が通じると思っていたが、留学から帰国して父の発音がすこぶる日本的なことに気づき「昔からあんなに下手だったの」と姉にいった。だがそれでも外国語教室主任もつとめた私だ。有名人の英語講演を失礼ながら品評させていただく。

伊藤博文は偉物だ。明治4年、岩倉使節団の副使としてサンフランシスコへ着くや英語でスピーチして大喝采を博した。日の丸はもはや日本を「封ぜし封蝨（ふうろう）ではなく昇る朝日である」と開国和親の大方針を告げたからだ。

それまですでに二度海外を体験していたとはいえ、手紙の封蝨（taper）などの英単語は同行米国人の入れ知恵だろう。だが伊藤は英文の手紙を自筆で何通も書いている（滝井一博氏の『グナリスト文書』調査結果による）。よく勉強した。後年も渡欧の船上でトルストイの英訳を読んでいた。

《大事にすべき護国の英霊》

サンフランシスコ講和会議で吉田茂は日本語で演説した。直径三寸の巻紙を繰りながら読む日本首相の様はトイレット・ペーパーと揶揄（やゆ）された。マッカーサー最高司令官と67回、二人だけの英語のトップ会談で臆するところなく「戦争に負けて外交に勝った」吉田だが、演説は日本語でも上手でなく、それもあって白洲次郎も英語演説を止めたのだろう。会議のあと日本人留学生向けには英語でスピーチしたがお愛嬌（あいきょう）だった。

だがあの世代の帝国外交官は気概があり立派だ。A 級戦犯・重光葵は巣鴨出獄後、外相として敗戦国日本の国連加盟を果たすや謝辞演説をすませ、帰国して死んだ。戦死ともいうべき最期だった。

安倍演説で感動的な光景は、硫黄島で戦った海兵隊のスノーデン元中将与栗林忠道司令官の孫の新藤義孝議員が握手した時だ。激しく戦った両軍だからこそ和解の拍手も大きかったのだ。言葉の力が戦いの蔭で働いたことも忘れてはならない。硫黄島で海軍司令官、市丸利之助は米国大統領へあて日英両文で遺書をしたため日本側の理を堂々と主張した。トーランドは『日本帝国滅亡史』にその全文を録したが、そのような護国の英霊を私たちは大事にせねばならない。両陛下は激戦地に慰霊に赴かれる。有り難いことである。

《世界の神話説かれた皇后さま》

スピーチで見事なのは美智子皇后陛下の国際児童図書評議会の講演で、英語版日本語版ともにすばらしい。皇后さまは世界の神話の意味を説き、日本については『古事記』の弟橘媛（おとたちばなひめ）が海神の怒りをなだめるために海に身を投じた話をされた。日本武尊（やまとたけるのみこと）を救うための、むごい恐ろしい生贄（いけにえ）の物語である。皇后さまは英語講演でも

さねさし相武（さがむ）の小野に燃ゆる火の火中（ほなか）に立ちて問ひし君はも

とまず日本語で読まれ、次いで英語で **Prince Brave of Yamato** はかつて敵に囲まれ火攻めにされた。だが火中であって危険をかえりみず妃である自分を救ってくれた、と弟橘の感謝の気持ちを説明し、オトタチバナはするように優しくしてくれたヤマトタケルのために進んで身を犠牲にした。愛と自己犠牲は不可分であり愛は時に厳しく残酷である。と古代の神話にことよせて皇后さまとしての覚悟をそう述べられた。

今後、英語授業で繰り返し聞かせたいのは皇后さまの講演。オリンピック東京招致の外国語プレゼンテーション。安倍スピーチ。いずれも教育価値が高い。日本の首相が何を言わんとしたか、その意味は年をとればさらにわかるだろう。賛成にせよ反対にせよまず聞かせること。そして生徒に自分の意見を述べさせ、できれば英語でまとめさせるがいい。（ひらかわ すけひろ）